

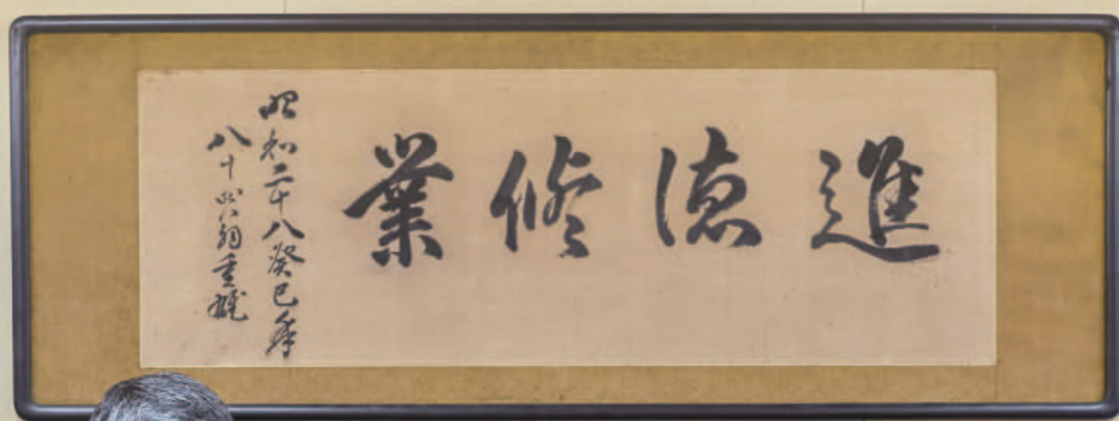
TOKYO SEITOKU

July.2025

NOW

vol.
58

東京成徳学園の“今”を発信する広報誌



特集

Special cross talk

トップが語り合う、学園の未来 — 学園創立100周年、その先に向けて —

東京成徳短期大学 開学60周年の軌跡



TOKYO SEITOKU

つながる学び、ひろがる未来。

学校法人 東京成徳学園



東京成徳短期大学 卒業証書学位記授与式



「やりたいこと」から自由になる



東京成徳学園
副理事長
木内 雄太

このたび、2025年6月より、学校法人東京成徳学園の副理事長に就任いたしました。創立100周年という節目の年に、学園の未来を託される立場をお預かりすることとなり、光栄に思うとともに、その責任の大きさを深く感じております。

私はこの春、アメリカのビジネススクールを修了し、日本に戻ってまいりました。世界中から集まった学生たちと共に学んだこの2年間は、教育の本質を見つめ直す貴重な時間となりました。

ビジネススクールでは、課題やディスカッションが日常で、週末や深夜の3時を過ぎてもグループワークが終わらないことがありました。私自身も例外ではなく、疲労を抱えながらも、チームと共に議論を重ねる日々を過ごしました。

しかし、私は日本の大学の学部生時代、平均的な学生でした。学業は“そこそこ”、サークル活動や趣味に熱中しながら、就職活動も卒業も問題なく進みました。そうした自分が、アメリカでは本気で学び、本気で語り合っていたことに、自分でも驚くほどでした。

その背景にあったのは、「キャリア意識」の違いです。

アメリカで学ぶ学生たちは、将来のキャリアをどう築くかを強く意識しており、その実現に必要な学びであれば、たとえ苦手であっても取り組みます。やりたいことがはっきりしていない人も多いですが、だからこそ、行動しながら経験を積み、自分の方向性を探っていく。その姿勢が自然に根付いていました。

言い換えれば、「キャリアを自分で形成する」という前提があるからこそ、人は明確な目標がなくても、主体的に動き、学び続けることができるのだと、私は気付かされました。

日本の教育も、ここ数十年、こうした学びの在り方を目指して改革を重ねてきました。偏差値教育への反省から、「主体的・対話的な学び」や「内発的動機づけ」など、子ども自身が学びをつくる方向への変化は、本質的に正しいものです。

しかし、現実には理想が強調されすぎた結果、「やりたいことが見つからなければ動けない」「自分の興味に従っていないと意味がない」といった空気が広がってしまっているようにも感じます。多くの子どもたちは、やりたいことが漠然としていたり、変化したりするのが当たり前です。その中でこそ、何を選び、どう行動するかが問われるべきなのだと思います。

学びとは、「自分が何者かを見つける」ための営みであり、必ずしも答えを持ってから始まるものではありません。むしろ、曖昧なままでも、キャリアへの意識を持って行動していく中にこそ、主体的な学びが生まれます。



2024年度卒業式の様子 [右上]大学院修了生集合写真
[左]当日登壇した卒業生の皆さん[右下]卒業証書学位記を授与される学部卒業生

また、国際経験の差も大きく感じました。多くのクラスメイトたちは、10代から複数の国で過ごした経験を持ち、大学学部時代から海外で学ぶことが当然のようでした。引越しのたびに文化や言語を切り替え、世界を当たり前の生活圏として捉える——そんな学生が多くいる中で、日本人学生の国際経験は限られており、私はしばしば教室で唯一の日本人という状況にありました。

日本は今も多くの尊敬を集めています。文化、ものづくり、安全な社会、どれも世界に誇るべき資産です。しかし、そうした日本を自ら語り、世界の舞台で活躍する人材は減っているように感じます。世界から見れば注目すべき国であるにもかかわらず、その存在感を自ら縮めてしまっているようにも見えました。

私は、教育の一つの役割として、「自分の人生を自分でデザインする力」を育てる営みがあると考えています。そして、その力は、正解を与えられることでは育たず、曖昧さや変化の中で、自ら選び取る経験の積み重ねによって育まれるものです。

東京成徳学園には、「人が人を育てる」という文化があります。教職員が、生徒一人ひとりに真摯に向き合い、その可能性を信じて寄り添い続ける。この100年の営みこそが、成徳の教育の原点であり、最大の財産です。私はこの土台を大切にしながら、次の100年を見据えて、時代に合った進化を共に目指してまいります。どうか今後とも、変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

※木内雄太副理事長のプロフィールは26ページをご覧ください。

TOKYO SEITOKU

NOW

「TOKYO SEITOKU NOW」は
1年に2回、東京成徳学園の情報を
お届けする総合広報誌です。

01 巻頭言

03 特集 1

Special cross talk

トップが語り合う、学園の未来

— 学園創立100周年、その先に向けて —

09 特集 2

東京成徳短期大学 開学60周年の軌跡

11 TOPICS

11 国際学部／子ども学部／経営学部

12 応用心理学部／大学院

13 短期大学／中学・高等学校

14 深谷中学・高等学校／幼稚園

15 大学&短期大学が100分授業に!

16 先生に聞く。

学園創立100周年記念事業

17 ひと『活躍する卒業生』

株式会社アガルート

営業本部 デザイン室 エディトリアルデザイナー

吉田 亜沙美さん

19 進路(進学・就職)

21 クラブ活動報告／クラブ活動紹介

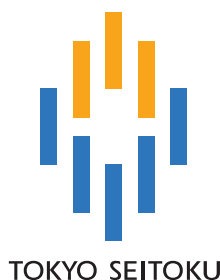
23 学園の動き

ブランド・ステートメント

27 お問い合わせ先

学園後援会のご案内

読者アンケートのお願い



学園のシンボル・マーク

イエローは「活力」と「勇気」を表し、3本の柱は学生・生徒・園児、教職員、同窓生を象徴しています。ブルーは「理想」と「若さ」を表し、5本の柱は5つの教育目標を象徴しています。そして、8本の柱が一体となり、東京成徳学園とその学園に集う人々のヒューマニティーを作り上げる姿を表現しています。

トップが語り合う、学園の未来

— 学園創立100周年、その先に向けて —

変動の激しい現代社会において、教育機関は従来にも増して柔軟性と先見性が求められています。幼稚園、中学・高校、大学・大学院・短大を持つ総合学園として、創立100周年という節目を迎える今、学園独自の強みをどう生かしていくべきなのでしょう。東京成徳大学の吉田学長、東京成徳短期大学、東京成徳大学中学・高等学校の木内学長兼校長、そして東京成徳大学深谷中学・高等学校の石川校長という各教育機関のトップをお招きし、「オール東京成徳」で描くグローバル人材育成とICT・AI教育を両輪とした、これからの教育の未来像についてお話をいただきました。

東京成徳短期大学 学長
東京成徳大学中学・高等学校 校長

木内 秀樹

慶應義塾大学法学部卒。民間企業を経て、1985年に教員に。1990年東京成徳大学中学校長、1999年東京成徳大学高等学校長、2013年東京成徳学園理事長、東京成徳短期大学長に就任。元中央教育審議会専門委員、東京都私立学校審議会委員ほか。

— まずは、各校の校風や学生の特色について教えてください。

吉田 東京成徳大学(以下・大学)は多彩な学部・学科があり、それぞれ個性は異なりますが、全体的に真面目で素直な学生が多い印象です。先生と学生との距離も近く、キャンパス内でのコミュニケーションが盛んです。

木内 東京成徳短期大学(以下・短大)は幼児教育分野への人材輩出を担っていることもあり、明るく優しい人柄の学生が集っており、和やかな雰囲気になっています。また、校長を務める東京成徳大学中学・高等学校(以下・東京校)は、素直でおおらかな性格の生徒が多く、校則はあるものの比較的自由的な雰囲気があり、共学校とし

て男女の協働が円滑です。

石川 東京成徳大学深谷中学・高等学校(以下・深谷校)は、明るく元気な生徒が多いです。校内の至るところでいさつの明るい声が響いており、多くの生徒が学校行事や部活動にも一生懸命に取り組み、成果を出しています。

— 学園創立100周年に向けて策定された「東京成徳ビジョン100」では、『成徳』の精神を持つグローバル人材の育成を目標に掲げ、重点項目として国際的コミュニケーション能力の向上とICT教育に注力されています。各校ではどのような学びを行っているのでしょうか。

吉田 大学では、「グローバル教育セン

ター」を軸として留学・海外研修を厚くサポートしています。2024年度は合計18名の学生を海外へ派遣し、3名の交換留学生を受け入れました。国際学部では最長1年間の長期海外留学が必修となっており、帰国後は自立心の強い若者に育っている印象です。

木内 短大は保育士や幼稚園教諭養成のための国家資格取得対策・実習中心のカリキュラムとなっていますが、大学に倣って100分授業を導入したり、グローバル教育センターの活動に参加したりと、大学と同じキャンパスであることを生かした学びが特長で、留学プログラムに参加している学生もいます。これからの幼児教育を担う人材にはグローバルな感覚や理解も求

東京成徳大学 学長

吉田 富二雄

東京教育大学応用数理学科卒、筑波大学大学院心理学研究科博士後期課程単位取得退学。大正大学、筑波大学を経て2012年より東京成徳大学教授。応用心理学部長を経て2021年東京成徳大学学長に就任。専門は社会心理学。博士(心理学)。

東京成徳大学深谷中学・高等学校 校長

石川 薫

東京学芸大学教育学部卒。埼玉県立高校教員としてキャリアをスタートし、教頭、校長を歴任。県教育行政では、女性初の高校教育指導課長、総合教育センター所長、県立学校部副部長・部長を務め、数々の改革を牽引。2023年より東京成徳大学深谷中学・高等学校校長に就任。

められるため、今後もさらに推進していきたいと考えています。

東京校では「個の確立」を重視し、人間探究の授業を通じて「自分を深める学習」を行っています。短期・長期留学に力を入れており、海外大学への進学も実現しています。また毎年欧州・南米・アジアなどのさまざまな国から高校生の短期留学生を受け入れ、多様な価値観に触れながら協働する力を育み、外国語を用いたグローバルな探究活動の促進につなげています。

石川 深谷校の中学校では、東京校と合同でニュージーランド学期留学を実施しており、参加した生徒たちは毎年さまざまなことを吸収して、語学面も人間的にも大きく成長して日本へ

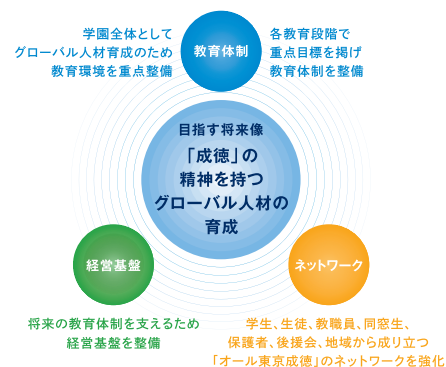
戻ってきます。また、中学校の理科等の授業を英語で実施するCLIL※も展開し、夏休みには3日間オールイングリッシュで課題発表に挑むイングリッシュキャンプを実施しています。高校では英語検定に向けた指導に加え、企業連携にも積極的に取り組んでいます。昨年は本校生徒がGoogleのキャリア教育イベントに参加し、生徒がCEOに直接英語で質問する機会があったり、国際協力機構(JICA)と連携した特別授業を実施したりと、さまざまな形で生徒たちの視野を広げながらグローバル人材の育成を図っています。

吉田 大学では、英語・韓国語の語学講座や留学体験ワークショップを開催しており、海外からの大学生インター

※CLIL(Content and Language Integrated Learning) : 他教科科目(理科や社会科など)やテーマの内容の学習と外国語(主に英語)の学習を組み合わせた学習。

ンシップ受け入れや1day国際交流イベントなども実施しています。これらのイベントや交換留学生のオリエンテーションは、学生団体が企画・運営に参加してくれています。

大前提として、人・モノ・金、そしてあらゆる情報が国際社会を行き来して



「東京成徳ビジョン100」の目指す将来像



いる現代において、「海外で学ぶこと」だけがグローバルな教育とは限りません。学ぶ場所に関係なく、学びや活動の中で培った知識や経験を生かして、どんな形で社会に表現・発信していくのかを主体的に考えていくことが、グローバルな学びの本質にあります。

木内 円安による渡航・現地滞在費用の高騰もあり、留学の難易度は高まっていますよね。そういったことも踏まえ、東京校でも校内で国際交流ができるような環境整備に注力し、専任のネイティブ教員を12名と多数配置しています。こういった取り組みも真のグローバル教育には必要不可欠だと考えています。

また、東京校の高校で実施している「探究型学習」も、問題を発見する力・他者と協働して課題を解決する力といった広義な意味でのグローバル人材に欠かせない能力を養うために、生徒たちが主体的に学びを深めていくカリキュラムになっています。



グローバル教育センター【大学・短大】

海外の大学と連携し、多様な留学制度や海外研修のプログラムを用意。また、学内で語学を学べるレッスンや、国際交流イベントの情報なども提供している。

石川 東京校の探究型学習ではフィールドワークを実施されていますよね。深谷校も昨年スタートした「SEITOKU探究」で地域課題解決に取り組んでいますが、今年度はそうしたフィールドワークも取り入れながら一層充実した学びを展開していきたいと考えています。

——もう一つの重点項目である「ICT教育」に関して、各校の特徴的な取り組みや設備をご紹介します。

木内 東京校はApple社が先進的な教育への取り組みを評価した学校に与える「ADS(Apple Distinguished School)」に認定されており、世界各国のADS認定校との交流も活発です。STEAM教育の環境を充実させ、テクノロジーを活用した課題解決力を養いながら生徒の可能性や選択肢を広げていくことを目指しており、保護者の方々から「ぜひこの環境で教育を受けさせたい」といった反響があります。

石川 深谷校は文部科学省の「DX加速化推進事業(DXハイスクール)」に指定され、校内に「DXラボ」を設置しました。高スペックのPC、3Dプリンター、レーザーカッターなどさまざまなデジタル機器を導入し、今年度は設備の体験会などの具体的な取り組みを進めています。ICTはただ単に使えば良いというものではなく、いかに効果的に授業に活用するかが重要だと考えています。各教科で効果的な場面や活用方法も異なるため、授業公

開・研究授業を行いながら環境整備を進めています。今後は授業内での活用だけでなく、運動部のさまざまなデータ収集・分析などにも活用できるのではと期待しています。

吉田 感染症拡大下でのオンライン授業に関して、本学は学生の満足度調査でも高い評価を受けましたが、その一方で、教室という同じ空間を共有し対話する対面授業の大切さも改めて実感することになりました。今後も教育の本質にある「対話」を大切にしながらICTを活用していくことで、より豊かで幅広い授業内容を実現したいと考えています。

2025年度からは、行事等で過密な学年暦の緩和や祝日授業の削減、休業期間の拡大による海外研修や課外活動への参加等を促すことを目的とした100分授業を導入しました。「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」の一層の充実が見込まれ、さらなる展開を期待しています。

木内 短大でも同時期にオンライン授業を実施しましたが、PC保有率の低さからスマートフォンでの受講となる学生が一定数存在し、学習環境の整備に苦戦しました。現代の幼児教育の現場においてはPCの基本的な操作やデジタル活用のスキルは必須となるため、対応が急務だと感じています。

——ICTというと、昨今ではAIの活用が急速に広まっています。

石川 生徒たちの中でも、作文や課題等にAIを使用しているケースもあるだろうと感じています。AIの存在はすでに私たちの生活とは切り離すことができなくなっていますので、教育の場でも単に使用を禁止するのではなく、AIが生成する情報の真偽性や依存リスクといった懸念も含めて慎重に検討し、正しい使い方を指導していくことができればと考えています。

吉田 まさに、AIの利活用は議論の余地がある分野ですが、AI活用は現代

の学生たちの将来の必須スキルであり、その活用方法を日常の教育活動に組み込むことが重要だと考えています。そこで2025年1月の全学SD・FD研修会では、生成AIを活用した授業実践例を紹介しました。AIに企業の生産性向上策を質問し対話したり、ロールプレイ課題をする中で、学生からは「効率的な情報収集に役立った」「思考の幅が広がった」などの肯定的な意見が寄せられました。今後、大学としてもAIの活用を強力に推進していく方針です。

石川 スピード感と専門性が求められる分野ですので、大学と中高で連携しながら学園として研究・発信等ができるのが特色になるのではと思います。

吉田 そうですね。大学ではまず全教職員へAIライセンスを支給し、専門委員会や全学研修会を通じて、AIの適切な教育導入を早急に進めています。

石川 また、教員の視点としては、教科指導上での判断や、個別最適な問題提供、資料作成等にAIを活用することで、働き方改革につながると考えています。AIを適切に活用することで、さらなる教育現場の充実につなげていきたいと思っています。

木内 AI技術の学校教育への波及効果は今後ますます大きくなることが予想され、東京校においてもAIとどのように向き合いながら教育活動を行うべきか、ICTをいかに活用していくべきか、さまざまな教科で試行錯誤を重ねています。

そうした中で、今年度は文化祭開催にあたって生徒会が来場者の来場受付を自分たちで構築した二次元バーコード(QR)を使ったシステムで管理するといったデジタル化を図ってくれました。従来は紙ベースのアナログな方法で集計していたので、これには目を見張りましたね。

石川 行事や授業で、積極的にICTを活用しているというのは素晴らしいですね。社会が進歩していく中で、教育



SEITOKU探究【深谷校】>>>

深谷市役所や近隣大学と連携した独自の授業「SEITOKU探究」では、地域課題の発見・解決をチームごとに実施し、最終的にプレゼンで発表を行う。主体的に学ぶ力・協働して学ぶ力・考えを発信し行動する力を養う探究活動となっている。

機関だけが取り残されないよう、新たな取り組みを進め続けていく必要性を実感します。

木内 短大が目指す保育・幼児教育の現場においては、その核となる「子どもと接し育て」という業務をAIが完全に代替することは今後もありえないでしょう。子どもたちとの日々の関わりや対話、コミュニケーションを通して、愛情・思いやり・公正・多様性といった人間性の根幹を育んでいくことは、AIでは替えがきかない仕事ですし、まさに「成徳」の精神を体現している行為であると思います。

その一方で、事務作業や記録管理などの分野では、AI活用による労働効率の向上が期待できます。こうした技術を適切に取り入れることで捻出した時間を子どもたちとのより深い対話に充てるなど、人にしかできない教

<<< 探究型学習 Diversity seminar ほかに【東京校】

興味分野を少人数のゼミ形式で探究する「Diversity seminar」を高校1年次に実施。高校2年次には生徒たちそれぞれがテーマを決め、フィールドワークなどを通じて、調査・検証しながら1年間かけて研究論文を作成する実地踏査型研修旅行を実施する。



育の本質を大切にしながら、AIを活用していくことが大切になってきます。

吉田 教育という分野、特に幼児教育においては、愛情やホスピタリティといった非言語的な関わりが重要な役割を果たしており、「AIの代用がきかない職業」と専門家の間でも指摘されていますよね。

他方、AIが教育環境に与える影響という点では別の側面もあり、昨今AIによるリアルタイムの通訳機能の精度が高まっています。これまでの日本社会は英語力への不安から海外展開や国際交流に二の足を踏む場面が多く、語学力がグローバル化を妨げている部分もあったので、AIを有効活用することでグローバルな活動への障壁が低くなることは確かです。

木内 海外の学生はグローバルな視点で物事を考えますが、日本は言葉の



問題もあり、どうしても国内に視野が留まりがちですね。AI翻訳技術の進歩により、言語の壁が低くなった今こそ、生徒たちにはツールを十分に活用しながら、失敗を恐れずに世界に向けて挑戦するメンタリティを持ってほしいと思います。

吉田 その通りです。ネイティブ英語でなければいけないと身構えなくていいんです。ジャパニーズ英語でもいいので、積極的にどんどんコミュニケーションを取ってほしいですね。

石川 よく言われることですが、国際交流に大切なのは伝えようとする気持ちと学びへの意欲にほかなりません。以前海外で現地の子どもたちに授業をした際に、彼らの表情や姿勢から、学ぶことへの意欲、学べることへの喜びを強く体感しました。海外の生徒たちの学びへの姿勢は非常に貪欲で積極的です。こういった学ぶことへの意欲や積極的に挑戦する気持ちを育てることは、日本の全ての教育現場に求められるものではないでしょうか。

—— 挑戦する気持ちを育む教育環境の構築に向けて、教育機関ではどのような取り組みが必要になるのでしょうか。

吉田 教職員自らが挑戦する精神を持ち、新しいことにトライする姿勢を見せることで醸成されていくものもあると思います。それぞれの学校が現在の

強みを生かしながらも、さらに先を見据えて柔軟に現代社会に対応した活動を推進していくことが重要です。

石川 生徒一人ひとりが生き生きと学び、挑戦できる学校にしていくなために、指導する教職員たちも生き生きと仕事ができる現場にしたいと考えています。教職員が生き生きしていることで、それが生徒たちにも確実に影響しますから。

木内 学園全体で教職員の教育や資格取得に力を入れており、東京校はApple Distinguished Educatorの資格を現在5名の教員が取得しています。この資格を取得するにはポートフォリオを提出し、Apple社が主催するInstituteと呼ばれる国際的な大会に参加する必要がありますが、渡航費などの費用面を現在は学校がサポートしています。

吉田 大学では教職員および全学生にOffice365 A3プランを提供し、統計学・Officeなどの情報処理科目を開講しています。情報ネットワーク委員会では学内ネットワークの安定運用、教職員・学生のICT技能向上を推進しており、教職員向けのICT講習会、学生向けの全学対象Pythonプログラミング特別講習会などを実施。教職員も学生も意欲的に技能向上に臨めるよう、教育環境の整備を進めています。

石川 深谷校でもGoogle認定教育者資格に挑戦する教員が出ています。

認定レベルは数段階に分かれている資格ですが、特に上位レベルでは相当な準備が必要です。昨年は4名の教員が自主的に挑戦し、この資格を取得してくれました。

教育機関ではベテランから中堅、若手までそれぞれの教職員の力が必要不可欠ですが、特に若手教員が活躍する場所や自由な発言ができる場所があることは、学校全体の活力を生む源となります。深谷校では、若手の先生方を中心に「将来構想委員会」を発足し、新たなアイデアを出し合っています。ここから、特色ある授業の実施、部活動や広報活動の活性化に向けた新たな提案が出るなど、教員にもチャレンジする気運が高まっています。

木内 部活というキーワードをいただいたので補足すると、昨今、公立中学校では部活動の地域移行が進みつつあります。これは私学の教育機関にとってはある意味チャンスです。

地域移行では、種目や活動時間が制限されてしまうデメリットに加え、授業とは異なる場面での生徒の個性や可能性を発見できる機会の損失や、縦の関係の希薄化、部活動を学校生活の核としていた生徒が充実感を失うなど…さまざまなマイナスの側面があります。部活動は日本独特の文化ですし、教職員の働き方改革に向けて時間配分は適切に検討しなければなりません。今後も継続して力を入れていきたいです。

吉田 部活動に加え、実は文化祭や体育祭も日本独自の行事ですね。授業時間や放課後を活用して文化祭、体育祭の準備をするといったことは、海外の教職員からすると非常に特殊に映るようです。

しかし、こうした行事の準備過程の時間は共同作業の訓練でもあり、クラスメイトや先輩後輩と集団で協働することを経験し、協調性を高め、その中で個を確立していくための学びにもなります。日本独自の価値ある教



育システムで、部活動同様にもっと評価されて良いと日々感じています。

—— 今後、学園内の各校がさらなる発展をしていくために、どのような展望を描いていらっしゃいますか。

木内 学園創立90周年の際に、100周年、そしてその先の未来を見据え、学園としての統一ビジョンとして「**東京成徳ビジョン100**」を策定し、各校の重点目標とそれを達成するための施策を体系化しました。各教育機関とその教職員一人ひとりが、引き続きこのビジョンを掲げ実践していくことが大切です。

「*One for all, all for one*」という著名なフレーズがありますが、私はこれを「*One for all, all for one purpose* (パーパス)」という考え方で捉えています。パーパス(目標・ビジョン)の存在は、組織内の意思疎通を促進し、チームの一体感を生み、組織能力を格段に向上させます。パーパスを共有している組織には、どんな変化の波が押し寄せても迷うことなく進むべき道を示す羅針盤があります。だからこそ、揺るがないパーパスを持つ組織は強いのです。

石川 各校が持つ力をお互いに共有し合うことで、学園全体のパワーアップを図ることができると思います。昨年は、大学の先生に出前授業をいただいたり、東京校から留学を熟知した先生に来ていただくなどの学校間連携も実施しました。生徒にとって高

度な学習機会となっただけでなく、教職員にとっても大変学びのある時間になりました。こうした学びに関するノウハウの共有なども含めて、相互に学び合える関係を今後も継続していきたいと思います。

吉田 2026年に学園創立100周年を迎えるにあたり、さらにその先の将来像として、大学では「小規模大学の機敏で柔軟な特長を生かし、社会の加速度的変化に積極的に立ち向かって成長していく大学」を目指しています。軽快なフットワークで物事に柔軟に対応していくことが大事で、この柔軟性は日本特有の風土でもあります。古代の日本では、中国から漢字が伝来し言語・文化が大きく変容しましたが、万葉仮名が長い年月をかけてひらがなという文字に変化していったように、日本人は外から取り入れた文化を自分たちのものにうまく変えていく能力があります。現代で例を挙げると、サンドイッチは海外発祥の文化ですが、これに生クリームとイチゴを入れてフルーツサンドにしたのは日本人のアイデアです。そういった発想力や自由なアイデアを生かして、学園全体が積極的に、失敗を恐れずに挑戦していくマインドを持つことが、今後のさらなる発展への道しるべだと思います。

—— 最後に、これからの教育の方向性について、お考えや想いをお聞かせください。

石川 現代社会では、知識を教えるだけでなく、生徒が主体的に学べるように共に伴走し、一人ひとりの能力を引き出す支援が何より求められています。私たちも、学園全体も、生徒や教職員が意欲的に学び、自らの可能性を広げられるようサポートしていくことが不可欠だと改めて実感しました。引き続き、グローバル教育やデジタル教育、地域連携への取り組みなど、本校の特色を積極的に発信していきたいです。

木内 本学園が目指すのは、社会が抱えるさまざまな課題に、それぞれの立場で挑む若者を育てることです。そのためにも、主体的に考えるだけでなく、多様性を理解する力と、異なる意見・考え方に対応・調整する力を身に付けさせたいと考えています。異なる文化背景を持つ人々と向き合う時、最も大切なのは相手をリスペクトし、多様な意見を尊重しながら問題解決に貢献する行動力です。過去のサッカーW杯では、日本のサポーターがゴミ拾いをしたことが世界的なニュースとなり、その行動が他国にも広がった例がありました。こういった言語を超えた配慮や行動、まさに「成徳」の精神こそが、グローバル社会に通用する、普遍的で随一の力であると思うのです。

吉田 日本では偏差値が重視されますが、グローバル社会においては自国内での序列はほとんど意味を成しません。苦手な分野はAIを活用して、自分にしか生み出せないアイデアや発想力で勝負するなど、自分なりの強みを学生生活の中で見つけてほしいです。変動の激しい時代、自ら積極的に適応して学んでいく、成長への意志を持つことが何より大切だと思います。

本日は各校の取り組みや最新のトピックス、想いを共有することができ、大変有意義な鼎談となりました。今後も各校がそれぞれの強みを生かしながら連携し、100周年、そしてその先の未来に向けて、学園全体で協働し挑戦を続けていきたいと思っています。



DXラボ【深谷校】>>>

昨年「DXハイスクール」に指定された深谷校では、校内に独自の「DXラボ」を導入。理数探究の授業や修学旅行などの学習活動をはじめ、SEITOKU探究での地域課題解決にもデータサイエンスを活用した学びを展開予定。

<<< ラーニングコモンズ【東京校】

MacBook Proやロボットなどデジタル機器を用いて、生徒たちが協働的かつ探究的に学べる「ラーニングコモンズ」。情報以外にもさまざまな教科の授業や探究活動をここで実践している。



東京成徳短期大学 Tokyo seitoku college 60th anniversary

開学60周年の軌跡

東京成徳短期大学は、2025年に開学60周年を迎えました。

これからも『成徳』の精神を未来につなぎ、
価値あるブランドとして飛躍してまいります。

育み続ける成徳の心

— 60年の歩みと未来への翼 —

1965年、北区十条の地に女子短期大学として開学した本学は、文科の設置より教育の門戸を開き、翌年には幼児教育科を新設、学園の高等教育機関としての基盤を確立いたしました。2000年代に入り、文科を言語文化コミュニケーション科に改称、ビジネス心理科の新設など、時代の要請に応じた教育体制の刷新を重ねてまいりました。2004年の男女共学化の実現、同年東京成徳大学子ども学部が同じキャンパスでスタートし、短期大学と大学が共存する新たな発展の段階へと進みました。今では短大と大学・大学院の全てが同じ東京に集い、大学や学科の枠を超える連携が始まるなど、その後の歩みにおいても、本学園の建学の精神に基づく人材育成に邁進しているところです。

この栄えある60年の歴史を支えてくださったのは、各界各層でご活躍の卒業生の皆さまです。卒業生皆さまの不断のご尽力と母校への深いご厚情に、心より感謝申し上げます。

現在は幼児教育科の単科として、より専門性を深化させた本学は、卒業生の皆さまと共に歩み、特に保育者養成の名門として揺るぎない地位を築いております。今後も建学の精神を堅持しつつ、さらなる高みを目指して邁進する所存でございます。



東京成徳短期大学
木内 秀樹 学長

— 短大60周年記念 鈴木大地氏による講演を開催 —

60周年事業として、学園創立記念日の11月26日に鈴木大地氏による講演を行います。皆さまの今後の人生にも役立つ、ご自身の経験談をお話いただきますので、ぜひお越しください。

詳細は準備ができ次第、ホームページでお知らせします。

< 鈴木大地氏 プロフィール >

日本の体育学者、元オリンピック水泳選手、金メダリスト、初代スポーツ庁長官を経て日本水泳連盟会長、アジア大学スポーツ連盟理事、順天堂大学スポーツ健康医科学推進機構機構長に就任されています。

- 1961 北区十条台1丁目17番の土地を取得
 1963 1号館を新築
 1964 東京成徳短期大学設置認可申請(9月)
 1965 東京成徳短期大学設置認可
 東京成徳短期大学 開学
 学長 熊澤龍 就任
 文科開設
 1966 2号館を新築
 幼児教育科開設
 文科を国文専攻と英文専攻に分離
 「東京成徳短期大学紀要第一号」発行
 1967 桐蔭寮(学生寮)を新築
 1971 「桐の花」創刊
 1973 学長 木内四郎兵衛 就任
 1975 3号館を新築(短期大学開学10周年記念事業)
 1979 4号館を新築
 大蔵省(当時)より後の5号館となる敷地・付属施設の払い下げを受ける
 1984 5号館を新築(短期大学開学20周年記念事業)
 1985 東京成徳短期大学同窓会「桐花会」発足
 1986 6号館(学習センター)を新築
 1987 第1回保育研修会を開催
 1992 運動場用地(浦和大原グラウンド)を取得
 1993 学長 木内秀俊 就任
 1994 キャンパス隣接地を取得
 1998 東京成徳短期大学ホームページを開設
 1999 専攻科幼児教育専攻<1年制>開設
 2000 文科(国文・英文専攻)を言語文化コミュニケーション科
 (日本語文化専攻・英語文化専攻)に名称変更
 2001 ビジネス心理科開設
 2002 専攻科幼児教育専攻を2年制に変更
 東京キャンパス(十条)の新校舎が竣工(現1・2号館)
 2004 幼児教育科、ビジネス心理科を男女共学化
 2005 新校舎が第2回「北区景観賞」受賞
 2008 言語文化コミュニケーション科を男女共学化
 2009 専攻科幼児教育専攻廃止
 2010 ビジネス心理科廃止(東京成徳大学経営学部への発展推移)
 2013 学長 木内秀樹 就任
 2014 言語文化コミュニケーション科廃止
 2015 **東京成徳ビジョン100**を策定
 東京キャンパス(十条)の新校舎が竣工(現3・4・9号館)
 2019 東京キャンパス(十条)の新校舎が竣工(現6号館)
 2020 東京成徳大学・東京成徳短期大学の教員・職員協働により
 ブランド・ステートメント、タグラインを策定
 2025 東京成徳短期大学開学60周年
 在学生190名/卒業生28,236名(5/1現在)
 2026 学校法人東京成徳学園創立100周年

開学初期の短期大学校舎玄関
(旧1号館)短期大学開学式典
(学園創立40周年式典)

開学10周年記念事業の旧3号館

開学20周年記念事業の5号館
(現在は大学院校舎として使用)短期大学で使用していた
旧6号館学習センター

旧4号館にあった図書館

現在の4号館・6号館あたりに建つ
旧7号館(手前)と旧3号館(奥)

短期大学の旧正門



東京キャンパス(十条)の現校舎



短期大学開学60周年おめでとうございます

短期大学の学生自治会「桐友会」の会長として、学生の皆さんが充実したキャンパスライフを送れるよう、行事の企画運営を行っています。この活動が、将来保育者として子どもたちに寄り添い、行事の楽しさや大切さを伝える力になると信じて活動しています。短期大学は学生と先生方との距離が近く、日々の授業や実習の中で、より実践的で深い学びが得られるところが大きな魅力です。これまで支えてくださった短期大学の先生方や実習園の先生方をはじめ、関係する多くの皆さまへの感謝を胸に、子どもたち一人ひとりに寄り添える保育者を目指して日々を大切に過ごしたいと思います。

桐友会 在籍数:32名(2年:13名 1年:19名) ※2025年5月現在

東京成徳短期大学
桐友会 会長
幼児教育科2年
鈴木 心那さん

東京成徳大学 国際学部

2026年度から新カリキュラム・新留学制度がスタート

国際学部の海外留学はこれまで1年生後期から約1年間実施することにしていましたが、2026年度に入学する学生からカリキュラムを改定し、留学出発時期を2年生前期に変更します。また、留学期間については必須の留学期間を2年生前期の約6か月とし、学生の希望に応じ最長1年まで留学できることにします。この改定により1年目の留学準備を中心とした教育プログラムを充実させます。また、留学期間については2年生前期のみの約6か月間、あるいは前期・後期の約1年間を選択できるようになりますので、学生個人の留学ニーズに対応できるようになることが期待されます。

国際学部長 芳賀 克彦



東京成徳大学 子ども学部



成徳幼稚園にて表現活動プログラム実践

子ども学部2年生の授業「子どもの芸術文化B」では、成徳幼稚園を訪問し、年長児のために学生たちが考案した表現活動のプログラムを実践しています。今年は1月22日に訪問し、ペットボトルやティッシュボックスなどを利用した楽器作りと『山の音楽家』を題材とした音楽劇を行いました。最初は緊張した面持ちの学生も園児たちの笑顔と元気に押され、精いっぱい活動に当たりました。園児たちと行う表現活動は、子どもの自由な発想に直に触れることのできる大切な時間であり、学生に大きな学びをもたらします。今後も成徳幼稚園と連携し、さまざまな表現活動の実践を重ねていく予定です。

子ども学部教授 長野 麻子

東京成徳大学 経営学部

経営学部2024年度ビジネスアイデア・コンテスト開催報告

2025年1月8日(水)、経営学部2024年度ビジネスアイデア・コンテストを開催しました。本コンテストは、1・2年次に開講される基礎演習I～IVで学んだ成果を発表する場として、受講学生全員が参加する行事です。学生たちはグループに分かれ、基礎演習での学びを生かしながら、関心を持った社会課題の解決に貢献するビジネスアイデアを考案し、発表を行いました。発表されたアイデアは、教員による審査と学生の投票で評価され、各賞が決定されました。本コンテストの最優秀賞は、食品ロスの解決を目指した「Not loss 食堂」ハッスル・スマイリーでした。

経営学部准教授 石川 正敏



東京成徳大学 応用心理学部 **臨床心理学科**

新1年生121名が入学

2月、3月に入学前教育の特別講義を行いました。将来の進路を見据え大学4年間でいかに過ごすかを考えてみる講演を大学院生OBに依頼し、また『大学で学ぶということ:「ならう」から「まなぶ」へ』と題して、初年次教育担当教員が高校までの学びとはどんな違いがあるかを概説。そして4月には121名の新入生が入学しました。オリエンテーションでは体育館で十数グループに分かれてお互いの自己紹介に続き、教員へのインタビューを実施。前期毎週水曜には学科の全教員が順に、得意とする分野の研究を紹介する科目「成徳の心理学」のオムニバス授業を聞いて、心理学に関わる領域の幅広さに驚かされています。

応用心理学部長・臨床心理学科長 一谷 幸男



東京成徳大学 応用心理学部 **健康・スポーツ心理学科**



学科独自の「受講ルール」等の策定

健スポでは、学科FDでの議論を踏まえ、2025年度からの学科方針を「健康・スポーツ心理学の専門性を修得した“真の大人”を育成する」ことにしました。この方針の趣旨は、「4年間にわたる学びを通じて健康・スポーツ心理学の専門性を修得すると同時に社会性を育む」というものです。「時間を守る」「期限を守る」「不正をしない」「自己責任を果たす」など、社会人として必要な意識や考え方を4年間を通じて確固たるものとするを旨とします。具体的な取り組みとして、今年度から「授業履修・受講ルール」と「生成AIの利用に関するガイドライン」を策定しました。

健康・スポーツ心理学科長 出雲 輝彦

東京成徳大学大学院 **心理学研究科**

新入生を迎えて

心理学研究科では、本年度13名の新入生を迎えることができました。修士課程12名、博士課程1名の新しい仲間が、本学心理学研究科のコミュニティの一員となりました。修士課程12名のうち、5名が本学応用心理学部臨床心理学科の卒業生です。また博士課程入学者は以前に修士課程を修了後に臨床心理の現場で長く働いてきた本学出身者であります。この事実は、学部課程と大学院課程の連携がますます充実していることを表しています。今後も学部と研究科の連携と交流を充実させて、さらに東京成徳大学心理学コミュニティを発展させていきます。

心理学研究科長 茂呂 雄二



東京成徳短期大学 幼児教育科

短期大学幼児教育科 新入生歓迎「ウェルカムランチ」開催！

4月4日(金)、オリエンテーションの昼休みにカフェテリアで新入生歓迎「ウェルカムランチ」を開催しました。新入生が不安なく大学生活をスタートできるように、学生自治会「桐友会」の2年生が中心となって企画しました。メニューはカツカレー(スープ付き!)です。食事中も子どもボランティア部がパネルシアターを上演し、桐友会の2年生が大学生活について質問に答えてくれ、短いながらも楽しい時間を過ごしました。1年生からは「初めて会った子と友達になれた」「先輩にいろいろ教えてもらえた」「安心した」「歓迎されてうれしかった」と喜びの声が聞かれました。

幼児教育科准教授 杉本 亜鈴



東京成徳大学中学・高等学校 中高一貫部

Company of the Year 2025 体験記



3月10日～14日の4泊5日で、Company of the Year(COY)に参加しました。COYとは、アジア地域の高校生が模擬株式会社を設立・経営するスチューデント・カンパニー・プログラムであり、その成果を各国代表が披露し合うJunior Achievement主催の国際大会です。今回は日本がホスト国であり、私たちを含め12か国から21社のスチューデント・カンパニーが各国の代表として大会に出場しました。アジア各国の若手起業家たちと出会い、同じ高校生とは思えないほど素晴らしい考え方に直面したと同時に、起業・経営には個の力だけではなく、チームとして互いに支え合って取り組むことが重要だと強く実感でき、自身の成長にもつながりました。

[報告]中高一貫部6年 星野 由莉／副校長 石井 英樹

東京成徳大学高等学校 高等部

外国人教員の取り組み

今年度より新しい先生をお二方お迎えし、合計5人の外国人教員が本校の教育活動に携わっています。日頃の授業はもちろん、生徒の海外への興味関心や英語力を高めるため、昼休みの時間に2つの取り組みを行ってもらっています。1つ目はEnglish Cafeです。DDR(Discussion and Discovery Room)で生徒たちは会話を楽しみながらご飯を食べたり、ゲームをしたり、テストや英検などの質問をしたりすることができます。2つ目はNative Newsという英語での校内放送です。内容は出身地の紹介や他教科の先生へのインタビューなど多岐にわたります。放送時の内容は文字起こしされ生徒に配信されているので、後から確認することができます。

英語科主任・教諭 井守 雄一／国際交流部課長・教諭 越山 恵梨菜



東京成徳大学深谷中学・高等学校

中高一貫コース

オーストラリア修学旅行

2025年2月18日(火)から1班が、20日(木)から2班がオーストラリアに向け出発しました。

修学旅行前半は、ボーデザートでファームステイを実施し、馬の餌付け・野菜収穫・星座観察などさまざまな活動を行いました。後半は、ゴールドコーストに移動し、市内観光を楽しみました。今回の修学旅行で、生徒たちは現地の文化・習慣・生活様式の違いなどについて学ぶとともに、語学力の必要性を認識することができました。この貴重な経験をもとに、今後の学習にしっかり取り組んでくれることを期待しています。

中学3年担任 ハウズ スティーヴン



東京成徳大学深谷高等学校

木島平校外学習

4月22日(火)から2泊3日の日程で、高校1年生が長野県木島平村にて校外学習を実施しました。今年の校外学習では、自然の中でのオリエンテーリングに代わり、パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」に挑戦しました。ボッチャは想像以上に頭を使う競技で、運動の得意・不得意に関係なく誰もが活躍でき、大いに盛り上がりました。その他、カレーライス作り、そば打ち体験、語り部による民話の拝聴、築太鼓の鑑賞と体験など、さまざまな活動を行いました。多くの体験を通じて、仲間づくりや集団生活における規律を学ぶことができ、校外学習の目標をしっかりと達成することができたと思います。

第1学年主任 山田 淳一



成徳幼稚園

春の遠足(新宿御苑)

5月21日(水)に幼稚園の全園児で好天のもと、春の遠足を実施しました。子どもたちは現地まで、バスの中でクイズなどを楽しみながら時間を過ごしたのであっという間に到着しました。御苑は桜やタイサンボクなどの大きな木がたくさん生えていて、子どもたちは普段見ることのない珍しい景色に興味津々でした。広い芝生の中で元気にゲームやかけっこで遊んだ後は、木陰でご家族が作ってくれたお弁当をいただき、友達と見比べながら美味しく食べている様子がとてもかわいかったです。年少組は入園してから初めての行事でしたが、広い芝生で寝転んだり、庭園内を散歩したり、初夏の自然を体験する貴重な1日となりました。

教頭 梶山 久美子



大学&短期大学が 100分授業に!

2025年度から
授業時間が
90分→100分へ!

pick up!

東京成徳大学・短期大学・大学院では、学びの質を高める教育改革の一環として

2025年度から“**100分授業**”を導入しました。

授業時間が100分に変更になったことで、学生生活にはどのような変化があるのでしょうか?

3つのポイントにまとめてご紹介します。

授業時間が10分増えると?

“授業期間”はどう変わる?

追加の10分間で授業内容がさらに充実!
より質の高い学びを展開



POINT

1

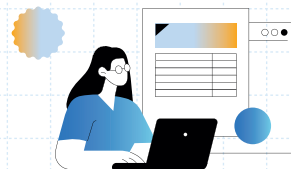
授業時間が10分増えたことで、これまで半期につき90分×15週で実施していた授業を、**1週少ない14週**で完了することができます。さらに、従来よりも**祝日授業の回数を削減**でき、ゆとりを持った学年暦(年間スケジュール)が実現できます。

授業期間が半期につき
1週間ずつ短くなる!

100分授業では、1コマあたりの授業時間がこれまでの90分から**10分間ずつ延長**されます。追加の10分間は講義やディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション・授業の振り返りの時間など、さまざまな手法で効果的に活用され、これまで以上に**授業内容が充実**。より質の高い学びを展開することで、**教育効果のアップ**が期待されます。

POINT

2



▽ **90分→100分(+10分)**で授業期間が1週間短くなる!

4月				5月				6月				7月				8月
1週 オリエン	2週 授業①	3週 授業②	4週 授業③	1週 GW	2週 授業④	3週 授業⑤	4週 授業⑥	1週 授業⑦	2週 授業⑧	3週 授業⑨	4週 授業⑩	1週 授業⑪	2週 授業⑫	3週 授業⑬	4週 授業⑭	1週 授業⑮
1週 オリエン	2週 授業①	3週 授業②	4週 授業③	1週 GW	2週 授業④	3週 授業⑤	4週 授業⑥	1週 授業⑦	2週 授業⑧	3週 授業⑨	4週 授業⑩	1週 授業⑪	2週 授業⑫	3週 授業⑬	4週 授業⑭	夏休み

90分授業
×
15週
(1,350分)

100分授業
×
14週
(1,400分)

▽ **90分→100分(+10分)**の時間割の変動

	90分授業	100分授業
1時限	9:00 ~ 10:30	9:00 ~ 10:40
2時限	10:40 ~ 12:10	10:50 ~ 12:30
	昼休み 50分	昼休み 50分
3時限	13:00 ~ 14:30	13:20 ~ 15:00
4時限	14:40 ~ 16:10	15:10 ~ 16:50
5時限	16:20 ~ 17:50	17:00 ~ 18:40

POINT

3

課外活動時間や
大学外で学ぶ時間を
確保できる!



“休業期間”はどう変わる?

授業期間の短縮により、**休業期間**(夏休み・春休み)が従来より**合計2週間長**くなります。この期間を活用して、これまで以上に留学やインターンシップ、ボランティアなどの**課外活動時間を十分に確保**でき、さらに充実した学生生活を送ることができます。

東京成徳学園の先生は、日々専門の研究に取り組んでいます。
先生方に研究テーマと研究への思いを、お話しいただきました。

大学・短期大学HPにも各教員の紹介を掲載しています。
下記のQRからぜひご覧ください。



保育現場の観察や調査を通じて見える「現場から立ち上がるリアルな課題」を大切にしています。子どもや保護者の課題に真摯に向き合う先生方の姿に尊敬の念を抱き、それが私の研究や教育の原動力になっています。現場の課題を行政の事業設計や保育者の養成に生かし、現場・研究・行政・養成をつなぐ架け橋になれたらと考えています。

保育の場における

「支援を必要とする家庭で育つ子ども」に対する 支援の実態とその在り方について

坪井 瞳 先生 *TSUBOI hitomi*

東京成徳大学 子ども学部 教授



紹介は
こちら

「子ども」は一枚岩の存在ではありません。育ちの背景や抱える課題は一人ひとり多様で、貧困・虐待・障がい、保護者の健康状態、生まれのルーツなど…さまざまな課題を抱える子どももいます。そうした課題は大人社会の課題の写し鏡でもあります。巡回保育相談や幼児教育アドバイザーとして現場を訪れる中で、こうした現実を目にしたり、保育者から相談を受けたりすることも多くあります。

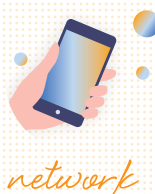
研究では、支援を必要とする子どもや家庭の実態、保育者の支援の様相を調査し、多様な家庭を支えるために必要な専門性について検討しています。よりよい教育にはよりよい生活の支援が欠かせず、「教育と福祉の連携」が必要だと考えています。



これまでの研究に関する著書の一部



巡回保育相談では、先生方とカンファレンスを通して課題を見だし、支援の在り方を共に考えています



卒業生をつなぐ オンラインコミュニティ 東京成徳 NETWORKを 開設しました

2026年の学園創立100周年記念事業の一環として、大学・短大・高校の卒業生同士や卒業生と教職員・在学生をつなぎ、それぞれが交流できる卒業生オンラインコミュニティ『東京成徳NETWORK(TS-network)』を開設しました。

『オール東京成徳』としての連携と絆をさらに深め、東京成徳学園のプレゼンス強化と教育内容の充実に取り組むためにも、多くの卒業生からのご参加をお待ちしています。

詳細は
こちら



未来へつなぐ メモリアルフォトアート メッセージと写真を 募集中！



学園創立100周年を記念して、在学生や卒業生、保護者の方、学校関係者の皆さまからのメッセージと写真を募集しています。お寄せいただいたメッセージ・写真は100周年特設サイトで公開され、写真はフォトモザイクアートとして100周年を記念するさまざまな媒体で展開予定です。

東京成徳での思い出や感謝の気持ちなどのメッセージを添えて特別な1枚を投稿して、思い出深い瞬間を共有しましょう！

詳細は
こちら





教育・保育×企画編集×デザイン
「好き」を積み上げて描いた
私らしい道を進んでいきたい。

株式会社アガルート
営業本部 デザイン室 エディトリアルデザイナー

吉田 亜沙美さん

YOSHIDA ASAMI

東京成徳大学 子ども学部 2010年3月卒業

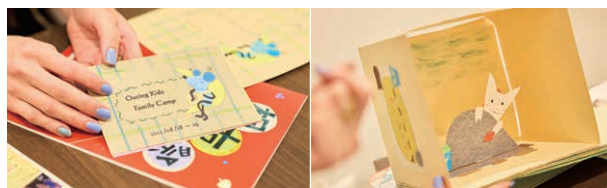
在学中から授業内外でさまざまな創作にいそしみ、手掛けた“しかけ絵本”は日本ホビーショー入賞。卒業後、印刷会社や編集プロダクション、デザイン事務所等を経て現職。仕事の傍らオリジナルの紙工作作品『手のひら高円寺』のワークショップ開催や、自主制作映画『中野セントラルデイズ』にて中野ショートフィルムフェスティバルグランプリを受賞するなど、地域や生活に根差した幅広い表現活動を展開。フリーランスのデザイナーとしても、冊子やカタログ、雑誌などのエディトリアルデザインほか、各種制作を受け付けている。

好きなことには一直線。 「作りたい」という想いが原動力に

紙を切る、素材を組み合わせる、空き箱や段ボールで作る…。小さい頃からモノづくりが好きで、工夫しながら頭の中のイメージを形にすることに没頭していました。集中しすぎると他のことを忘れてしまうような子どもだったと親から聞いています。そういった背景から幼児教育や造形の分野への興味を持ち、絵本や子ども向け雑誌の企画・編集にも関心があったため東京成徳大学子ども学部へ進学。児童文学や子どもに関するメディアの授業や基礎造形など、4年間で幅広く学べるところが魅力的でした。

特に印象に残っているのは基礎造形の授業。「保育者自身が素材の美しさや創作の楽しさを感じることが大切」という方針で、さまざまな表現技法を学びました。在学中に制作した“しかけ絵本”が、日本ホビーショーのハートウォーミング賞を受賞したり、学園祭のパフレットで私の切り絵が表紙を飾ったりと、評価していただけたこともうれしかったです。ほかに、興味の赴くままにキャンプ

サークルの活動で子どもたちと触れ合ったり、バンド活動をしたりと、のびのびと大学生活を謳歌していました。



在学中に制作した切り絵作品と、オリジナルの“はこ型”しかけ絵本

幼児教育で培った寄り添う視点が デザインの仕事に生きている

卒業後は保育関係の職に就く友人が多かった中で、私は印刷会社に入社しました。新卒時代には、大学のゼミでお世話になった加藤 理先生から大学の印刷物のご依頼をいただいたことがあります。社会人としてまだ未熟だった私を信頼してくださり、卒業後も仕事で携われたことは、今思い返しても感慨深い気持ちになります。

その後は編集プロダクションやデザイン事務所でデザ



高円寺純情商店街でのワークショップで配布したオリジナルミニチュアハウス作品の制作キット。『手のひら高円寺』と題して、地域にある実際の店舗をリアルに再現



『手のひら高円寺』の作品はInstagram (@tiny_tiny_box) でご覧いただけます >>



もともとは、活動拠点である中野・高円寺エリアの行きつけのお店を自主的に作品化していた吉田さん。その創造性に加え、地域とのネットワークもクリエイティブの源となっている

インのスキルを磨き、現在の会社ではオンライン予備校の販促パンフレットや教材関係の編集・デザインを担当するエディトリアルデザイナーとして働いています。文章だけでは伝わりづらい商品の魅力や難解な内容を編集・デザインの力で読者に分かりやすく伝えたい。そう思いながら日々奮闘しています。学生時代に学んだ、子どもに分かりやすく伝えようと工夫する姿勢や、相手の気持ちに寄り添って考える視点が生かされていると感じます。

学生時代から続けてきた創作活動が実を結び、ワークショップ開催、映画祭での受賞と充実の日々

学生時代から取り組んでいるさまざまな創作活動は、現在も仕事の傍ら継続しています。切り絵や紙工作のオリジナルミニチュアハウス作品をSNSで発信していたところ、高円寺の商店街からお声がかかり、地域イベントの中でワークショップを開催することに。子どもから大人まで多くの方にご参加いただき、楽しんでいる姿を間近で見ることができて感無量でした。また、大学時代に学園祭で自主映画

東京成徳学園で学ぶ皆さんへメッセージ

学生生活の中には娯楽の誘惑も多く、社会への不満も押し寄せて「こんなこと学んで意味あるの?」と疑問を持ってしまうこともあると思います。ですが、社会に出ると伏線回収のように「あの時学んだことが役立った!」と実感する瞬間がたくさんあります。進路選択の際には迷うこともあるでしょうし、やりたいことが見つからずに立ち止まってしまうたり、私のように学生時代に学んだ分野とは少し異なるキャリアに進むこともあると思います。それでも、自分で選んだ道は、やっぱり自分が好きで得意なものにつながっていくように思います。

学生がやりたいことを後押ししてくれる土壌がある東京成徳大学での幅広い学びは、必ず今後の人生での強みになります。失敗を恐れず、自分の選ぶ道を歩んでください。

『すきが未来を創る!』

課題や仕事でもないのに、とにかく好きで、楽しくて、やらずにはられない——。情熱を注いできたことが、私の人生を豊かにしています。好きな気持ちがあれば、未来は自分で創っていくことができる。その第一歩は、今の自分の「好き」を信じることから始まると思います。



を制作したことがあったのですが、その時の楽しかった記憶が印象に残っていて。2025年に中野区が主催する映画祭の存在を知り、思い立ってショートフィルム作品を応募したところ、なんとグランプリを受賞することができました!身近な人たちに支えてもらいながら作り上げた作品なので、受賞が叶い本当にうれしかったです。

今後もデザインの仕事や創作活動を通して、自分でモノを作ることの楽しさや、教育・保育の魅力をたくさんの人に伝えることで、子どもたちの明るい未来を作っていく一端になればと考えています。



吉田さんが脚本・監督・編集を手掛けたショートフィルム『中野セントラルデイズ』。中野区主催の映画祭第1回中野ショートフィルムフェス

ティバル『ナカヌ』一般部門でグランプリを受賞。「行きつけのお店で撮影させていただいたり、家族や友人に出演してもらったり」と、思い出深い大切な作品です。」

受賞作品はQRから
ご覧いただけます >>



2024年度卒業生の進路状況と本学の就職支援

2024年度の大学および短期大学卒業生の進路決定率は、大学全体で93.9%、短期大学では99.1%と、いずれも前年を上回る結果となりました。進路先も多岐にわたっており、新型コロナウイルス収束後の企業の採用意欲の回復に加え、本学のきめ細かな支援体制の成果が確かに現れています。本学では、1年次からキャリア教育科目を体系的に設計・配置し、段階的に進路意識を育てていけるようカリキュラムを構築しています。そのうえで、学生の成長段階に応じたキャリア教育を丁寧に展開し、学びを通して将来について考え、自信を持って進路を選択できる力を養っています。また、キャリアガイダンスや就職セミナー、インターシップの紹介や準備支援など、実践的な学びの機会も豊富に設けています。

さらにキャリア支援課では、個別相談、エントリーシートの添削、模擬面接、企業情報の提供など、一人ひとりに寄り添ったきめ細かな支援を行い、学生が安心して就職活動に臨めるようサポートしています。今後も教職員が連携し、学生の可能性を最大限に引き出せるよう、全学を上げて支援を続けてまいります。

就職支援センター長 稲垣 久美子

主な進路先 (民間企業等は五十音順)

大学

就職

【民間企業等】

(株)アーバンリサーチ、(株)アインホールディングス、青木信用金庫、(株)アダストリア、(株)アプラス、(医)IMSグループ、(株)ウイン・インターナショナル、(株)ウェディングボックス、ANAエアポートサービス(株)、NTTデータルウィーブ(株)、(株)オー・アール・ビー、(株)大塚商会、オリックス・ホテルマネジメント(株)、クオール(株)、クラブツーリズム(株)、(株)コボルポート、(公財)五戸町スポーツ振興公社、(学)滋慶学園、(株)JAL-DFS、(株)常陽銀行、住友不動産ステップ(株)、西武信用金庫、セザックス(株)、(株)DTS、東光東芝メーターシステムズ(株)、(株)羽田エアポートエンタープライズ、ファーストリテイリンググループ、(株)フォーカスシステムズ、(株)ベイクルーズ、(株)マルゼン、(株)メディカルトラスト、(福)拓啓会、リそなグループ、(株)LITALICO、ルートインジャパン(株)、渡辺パイプ(株)

【公務員】(教職・保育職以外)

自衛隊、埼玉県警察、市原市

【教職・保育職】

小学校、幼稚園、保育所、認定こども園、施設等

進学等

東京成徳大学大学院 心理学研究科、上尾中央医療専門学校、日本福祉教育専門学校、服部栄養専門学校、中央大学 経営学部(韓国)、安山大学(韓国)

短期大学

就職

【教職・保育職】

幼稚園、保育所、認定こども園、施設等

【民間企業等】

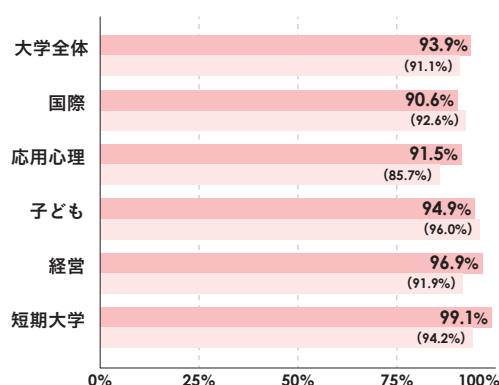
(医)心晴会、C-United(株)、(株)ウィゴー

進学等

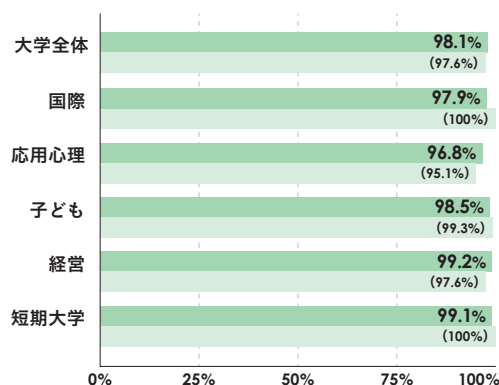
東京成徳大学 応用心理学部、東洋学園大学 グローバル・コミュニケーション学部

2024(令和6)年度卒業生進路状況 ()は前年度

進路決定率 $\left(\frac{\text{就職決定者} + \text{進学決定者}}{\text{卒業生}} \right)$



就職決定率 (就職決定者 / 就職希望者)



詳細は本学ホームページをご覧ください

高等学校の進学

東京成徳大学高等学校

●高等部

高等部の2024年度の卒業生407名のうち、進学者は350名でした。その内訳は、大学328名、短大4名、専門学校18名です。

高等部では、“行ける大学ではなく行きたい大学”への進学を目指しています。年内入試(総合型選抜・学校推薦型選抜)の需要と供給が高まり、志望校より先に受験方法を決める生徒が多く見られるようになりました。入試は目標を達成するための手段であることを強調し、目標である志望校への合格を達成できるようメンタル面でのケアにも努めています。また、目標設定の際は大学卒業後の就職にも目を向けさせ、将来何をするために大学へ進学するのかを考えさせています。特に年内入試では将来のビジョンも問われるので、大学入試を機に自分を見つめ直し、学力以外も大きく成長してほしいと考えています。

高等部 進路指導部長 平川 元喜

●中高一貫部

今春卒業した77名の進路は、大学進学70名、海外進学準備2名、来年より高い目標の大学を目指すため勉強中の5名です。大学進学70名の入試方式は、総合型選抜8名、学校推薦型選抜53名、一般選抜9名となっており、年内入試を受験した全ての生徒へ進路担当の先生方に適切に対応いただき、進路指導部長として頭が下がる思いでした。また、一般選抜ギリギリまでHR担任、授業担当の先生方は親身にサポートしてくださり、合格先はもちろんのこと、不合格先まで全て報告してくれたほどです。海外進学2名とは卒業式後の年度末に行ったIELTS強化週間にも参加し、現在も連絡を取り合っています。浪人生5名とも連絡をこまめに取り合っているのはもちろんのこと、夏と冬に面談も予定しています。世の中至る所に、「一人ひとりに」が溢れています。それを愚直に努めているのが中高一貫部の進路体制です。

中高一貫部 進路指導部長 吉川 直樹

東京成徳大学高等学校

2024(令和6)年度 主な合格実績

国公立大学(準大学含む) 18名

大阪 東京外国語 東京藝術 金沢
東京学芸 新潟 宇都宮 琉球 名桜
東京都立 埼玉県立 前橋工科
都留文科 新潟県立 防衛大学校

難関私立大学 125名

早稲田 上智 東京理科 青山学院
明治 立教 法政 中央 学習院
関西学院 同志社 立命館

併設の大学・短大 9名

東京成徳大学(7名)
東京成徳短期大学(2名)

(高等部・中高一貫部の合計・浪人含む延べ人数)

高等部・中高一貫部
それぞれの合格実績は
各HPの進路ページを
ご覧ください



高等部



中高一貫部

東京成徳大学深谷高等学校 2024(令和6)年度 主な合格実績

国公立大学 4名

千葉 群馬 高崎経済

私立大学 236名

早稲田 東京理科 立教 法政
学習院 武蔵 東洋 日本 駒澤
獨協 芝浦工業 など

併設の大学・短大 4名

東京成徳大学

(浪人含む 延べ人数)

東京成徳大学深谷高等学校

2024年度の深谷校卒業生数246名の進路状況は、大学159名、短大12名、専門学校51名、就職11名、浪人8名、その他5名でした。専門学校への進学率が減少し、大学への進学率が増加した結果となりました。

年内入試での受験を希望する生徒が増加するとともに、国公立大学や難関私大へ推薦入試での受験を希望する生徒も増えてきており、11月から12月が受験のピークとなりつつあります。年内入試への対策として、従来からの面接指導や小論文指導に加えて、部活動や深谷市・城西大学と連携した探究活動の中で、どのようなことを体験し、挑戦する過程でどんな学びを得られたかを志望理由書等の中で表現するように指導を行っています。今後も担任の先生だけでなく、多くの先生方が生徒一人ひとりに携わっていく指導体制で、生徒自身の「行きたい大学」への進路実現を目指していきたいと思っています。

進路指導部主任 木村 哲久

CLUB ACTIVITIES REPORT

クラブ活動報告 2024年10月～2025年3月

世界 世界大会進出 全国 全国大会進出 関東 関東大会進出

● 東京成徳大学

男子バスケットボール部 BASKETBALL

第100回 関東大学バスケットボールリーグ戦
3部リーグ-3位 / 2部-3部入替戦-3部残留 (2敗)

女子バスケットボール部 BASKETBALL

第74回 関東大学女子バスケットボールリーグ戦
4部リーグBブロック (1勝7敗) / 4部残留

大学男子バスケットボール部>>



<<大学女子バスケットボール部

● 東京成徳大学高等学校 (都ベスト16以上)

女子バスケットボール部 BASKETBALL

令和6年度 東京都高等学校バスケットボール選手権大会 優勝 **全国**

SoftBank ウインターカップ2024
第77回 全国高等学校バスケットボール選手権大会 ベスト16

令和6年度 東京都高等学校女子バスケットボール新人大会 準優勝 **関東**

令和6年度 関東高等学校女子バスケットボール新人大会 ベスト8

男子バレーボール部 VOLLEYBALL

令和6年度 東京都高等学校6人制バレーボール新人大会(決勝大会) ベスト16

女子バレーボール部 VOLLEYBALL

第77回 全日本バレーボール高等学校選手権大会 東京都1次予選 ベスト16

第33回 東京私立高等学校男女バレーボール選手権大会 ベスト16

令和6年度 東京都新人選手権大会 ベスト16

バトントワリング部 BATON TWIRLING

第59回 バトントワリング関東大会 コンテストの部 学校部門 高等学校
金賞 **全国**

第52回 バトントワリング全国大会 学校部門 高等学校 銀賞

女子ラクロス部(中高女子ラクロス) LACROSSE

第22回 中高生女子ラクロス秋季関東大会 (Autumn Cup 2024) 準優勝 **全国**

令和6年度 中高女子ラクロス関東新人戦 (Winter Open 2024) 優勝

第18回 中学生女子ラクロス関東大会 準優勝

第16回 全国中学高等学校 女子ラクロス選手権大会 準優勝

弓道部 KYUDO

令和6年度 東京都秋季大会 男子団体:3位(高2-2名、高1-1名) **関東**
男子個人:6位(高2) **関東**

第1回 関東高等学校弓道選抜大会 男子団体:出場(高2-2名、高1-1名)
男子個人:出場(高2)

書道部 CALLIGRAPHY

第65回 全国書道展 全国書道高等学校協議会賞(高3)
推薦(高3-2名、高2-1名)ほか
団体:全国書道高等学校協議会賞

第61回 全国競書大会 学生部:東京都教育委員会賞(高2) / 奨励賞(高2)
大会委員長賞(高3) / 推薦4名ほか
団体:優秀団体賞

第61回 創文展 二科賞(高2) / 入選(高2-2名)

演劇部 THEATRICS

第66回 東京私立中学高等学校演劇発表会 (TOKYOドラマフェスタvol.26) 優秀賞

● 東京成徳大学深谷高等学校 (県ベスト16以上)

サッカー部 SOCCER

第103回 全国高等学校サッカー選手権大会 埼玉県大会 ベスト16

令和6年度 埼玉県高校サッカー新人大会 ベスト8

卓球部 TABLE TENNIS

令和6年度 埼玉県ジュニア卓球大会 男子学校対抗-3位 **関東**

令和6年度 埼玉県高等学校新人卓球大会 男子学校対抗-3位
女子学校対抗-ベスト16

令和6年度 関東高等学校選抜卓球大会 出場

チアダンス部 CHEER DANCE

チアリーディング&ダンス選手権大会
USA Regionals 2025(地区大会) 神奈川大会-6位 **全国**

全日本チアリーディング&ダンス選手権大会
USA Nationals 2025 出場

パワーリフティング部 POWER LIFTING

第88回 埼玉県パワーリフティング選手権大会(高等学校の部)
男子:53kg級-3位(高1) / 59kg級-10位(高2)、12位(高1)
74kg級-4位(高2)、6位(高2)
女子:57kg級-優勝(高3)

全日本パワーリフティング選手権大会
第30回 ジュニア・サブジュニアクラシック部門
女子:47kg級-優勝(高2) **世界** / 57kg級-7位(高3)

令和6年度 深谷市スポーツ栄誉賞 受賞2名(高2、高3)

写真部 PHOTOGRAPH

第31回 関東地区高等学校写真展 奨励賞(高3)

● 東京成徳大学中学校 (都ベスト16以上)

女子バスケットボール部 BASKETBALL

令和6年度 東京都U-15バスケットボール選手権大会 ベスト8

女子ラクロス部(中高女子ラクロス) LACROSSE

(東京成徳大学高等学校の女子ラクロス部参照)

東京成徳では大学・高校・中学の学生・生徒たちが運動部・文化部・同好会などのさまざまなクラブに所属し、日々活動に取り組んでいます。仲間たちと切磋琢磨する学生・生徒たちに、所属するクラブのこと、これからの目標などリアルな声を聞いてみました。

pick up !

東京成徳大学中学・高等学校 女子ラクロス部

チーム名：
BRAVE YOUTH



2028年開催のロサンゼルスオリンピックで

120年ぶりにオリンピック正式種目に復活！



『ラクロス』とは、クロスと呼ばれる先端にネットのついたスティックでボールを操り、ゴールを狙い得点を競う競技です。3年後のロサンゼルスオリンピックで120年ぶりに正式種目として復活することが決定している、今注目のスポーツです。

東京成徳の中高女子ラクロス部は、日本代表選手も多数輩出する、全国トップレベルの実績を誇る強豪チームです。

春と秋の関東大会・全国大会での優勝、4年に1度の世界大会への出場を目標に、中学・高校が合同で日々練習に励んでいます。過去に10名以上がU19日本代表として世界大会に出場しています。また、海外から年代別代表や高校生のチームが本校との練習試合のために来日することもあり、外国の選手たちとの交流機会が多くあります。

日本代表選手の顧問が初心者から丁寧に教えていきますので、ラクロス歴の短い選手でも飛躍的に上達します。中学・高校の垣根なく、毎日楽しく活動しています。

部員数：88名

※2025年5月末現在

(高3:21名、高2:22名、高1:22名、中学:23名 / 女子88名)

活動日：月・水・金(16:00~18:30) / 土(15:00~18:00)

年2回の合宿(春・夏に実施)

Member's Voice

個性豊かなメンバーと
作り上げてきた
最高のチームで
優勝を目指します！

東京成徳大学
高等学校(高等部)
ラクロス部
3年キャプテン/MF
若栗 寧々さん



ラクロス部はチームの一体感と雰囲気を大切に、部員全員で声をかけ合い、和気あいあいとしたチームを自分たちで作っています。私自身は、後輩が手本とするキャプテンになれるよう、積極的に取り組んでいます。1年生の新人戦の時に初めての優勝をみんなと分かち合えたこと。今年の全国大会決勝で、優勝まであと一歩のところまで悔し涙を流した。全ての経験を糧に、チームメイトと練習に励んでいます。最後の大会になるティーンズ大会で、今度こそ優勝を勝ち取りたいです。応援よろしくお願いします！

全国大会決勝前に3年生で集まって1枚！
試合前は全員の声出し、意気込みをかけ合う「チア」で士気を上げています。



2024(令和6)年度 学校法人東京成徳学園 決算概況

法令に基づき、大学等の設置者である学校法人は、当該事業年度における決算関係書類および事業報告書を作成し、これを広く公開することが求められています。本学においては、理事会、評議員会での承認を経て、財務状況ならびに事業報告に関する情報公開を、順次、ホームページに掲載することとしております。

本誌では、誌面の都合上、財務状況の概要を掲出します。

● 東京成徳学園全体の卒業・入学・在籍数

2024年度 卒業生数	2025年度 入学者数	在籍学生・生徒・園児の 総数
1,484人 (累計134,723人)	1,645人 (前年比+100人)	4,982人 (前年比+50人)

資金収支計算書

(2024年4月1日から2025年3月31日まで) (単位:百万円)

科目	金額
学生生徒等納付金収入	3,612
手数料収入	89
寄付金収入	16
補助金収入	1,939
資産売却収入	1
付随事業・収益事業収入	10
受取利息・配当金収入	4
雑収入	235
借入金等収入	0
前受金収入	653
その他の収入	328
資金収入調整勘定	△906
前年度繰越支払資金	8,225
収入の部 合計	14,206
人件費支出	3,719
教育研究経費支出	1,113
管理経費支出	355
借入金等利息支出	15
借入金等返済支出	243
施設関係支出	284
設備関係支出	132
資産運用支出	100
その他の支出	309
資金支出調整勘定	△256
翌年度繰越支払資金	8,194
支出の部 合計	14,206

事業活動収支計算書

(2024年4月1日から2025年3月31日まで) (単位:百万円)

科目	金額
学生生徒等納付金	3,612
手数料	89
寄付金	1
経常費等補助金	1,896
付随事業収入	10
雑収入	235
教育活動収入計	5,842
人件費	3,727
教育研究経費	1,981
管理経費	433
徴収不能額等	11
教育活動支出計	6,152
教育活動収支差額	△310
収入 教育活動外収入計	4
支出 教育活動外支出計	15
教育活動外収支差額	△10
経常収支差額	△320
収入 特別収入計	62
支出 特別支出計	0
特別収支差額	62
基本金組入前当年度収支差額	△258

(注) 百万円未満を四捨五入しているため、合計等に差異が生じる場合があります。

貸借対照表

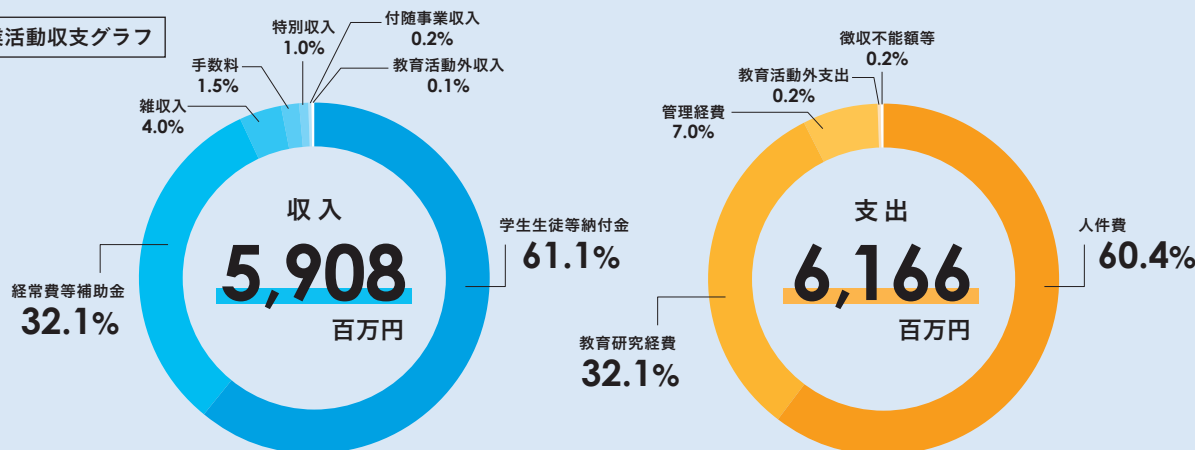
(2025年3月31日まで) (単位:百万円)

科目	金額
固定資産	39,850
有形固定資産	37,433
特定資産	2,330
その他の固定資産	87
流動資産	8,554
資産の部 合計	48,404
固定負債	2,872
流動負債	1,365
負債の部 合計	4,237
基本金	57,104
繰越収支差額	△12,937
純資産の部 合計	44,167
負債および純資産の部 合計	48,404

実施した主要事業

- 東京成徳ビジョン100・第3期中期事業計画の推進、ブランド・ステートメントのさらなる展開
- 学園100周年事業:東京成徳NETWORKの整備・拡大、「未来へつなぐメモリアルフォトアート」の展開
- 「経営企画室(大学)」の新設
- 「100分授業」の導入決定
- 各種留学プログラムの充実とその円滑な実施
- スクールカウンセラーの配置など生徒のサポート体制を整備
- 外部教育機関との包括的連携協定の締結
- ICT機器を活用した授業の一層の推進
- 延長保育の体制強化
- 学園寄附行為の変更(令和7年2月4日文科省認可、令和7年4月1日施行)と関連諸規程の整備

事業活動収支グラフ



2024(令和6)年度決算の事業活動収支については学生数の減少や人件費、教育研究経費の増加等の影響により、基本金組入前当年度収支差額は258百万円の赤字、資金収支については31百万円の資金減少となりました。

詳しくは、東京成徳学園HP
事業計画・事業報告の
「令和6年度事業報告書」で
確認できます。



2025(令和7)年度 事業計画(抜粋)

ビジョン100 重点目標		2025(令和7)年度主要事業の内容
大学	社会ニーズに対応した学部・学科編成	・2026年度から導入する新留学プログラム、新カリキュラムの準備を進行 ・各留学先に対するバランスの取れた学生の配置を継続 ・ChatGPT・ClaudeなどAIの利用を促進するため全教職員に利用しやすいライセンスを配布 ・プログラミング特別講座およびTSUパソコンスキル認定試験制度は全学的に継続実施
	教育の質向上 就業力や社会人基礎力の育成での社会的評価の獲得	・FDの資料として提供される「可視化された学修成果」がPDCAサイクルにおいてカリキュラムの改善に資するように働きかける ・必修のキャリア教育を推進・強化し、学生が満足する就職につなげていく ・100分授業のスタートにともない、AIなどを活用したアクティブラーニング(能動的学修)を積極的に実施 ・外部の学修プログラムの利用を含め、入学前および初年次教育の充実に努める
	大学の発展につながるグローバル化	・グローバル教育センターの海外留学プログラムの充実、留学制度の全学的な利用を引き続き促進 ・グローバル教育センターが開講する英語・韓国語クラスへの学生の積極的な参加の継続を促進
短期大学	社会ニーズに対応した学科編成	・学外授業・演習授業におけるグループワーク・動植物の飼育栽培体験・音楽・美術・表現等の実技科目の充実、成果発表の機会を作って学内外の多くの人の前で発表し自信を深められるように促す ・60周年記念行事として、短大の歩みを綴った印刷物を学生中心に企画・編集をして作成
	教育の質向上 就業力や社会人基礎力の育成での社会的評価の獲得	・100分授業展開の成果と課題の洗い出し・学修成果の可視化についてさらに全教員で見直し、検討 ・実習園との懇談会、地域ごとの就職説明会・懇談会への参加に加え、60周年記念の授業成果発表会に地域の方や関係園の先生方を招き、関係を強化 ・60周年記念の諸々の取り組みに学生が積極的に参加できるように工夫し、充実感が持てるようにする
	短期大学の発展につながるグローバル化	・海外短期研修について参加しやすい日程調整をし、参加者増を目指す ・「幼児英会話」を前期・後期開講し、より多くの学生が受講できるように支援 ・「情報機器の操作」「課題研究」等の授業で、個々の学生がICTを活用し実践
高等学校・中学校	創造性と チャレンジ精神を涵養し 主体的に学び、考え、 行動する人材を育成	・「自分を深める学習」の中で、より一層「主体的取り組み」および「集団でのディスカッション」を通じて、それぞれが気付き仕組みの実現を目指す ・探究型授業を引き続き継続 ・ミュージカル、歌舞伎鑑賞など引き続き継続 ・生徒が相互のコミュニケーションを図りつつ、連帯して成果を上げるよう指導を継続
	グローバル人材の 育成の強化を図るとともに 社会的評価の獲得を目指して	・一貫部新留学プランの成果を可視化し改善、高等部留学プログラムのさらなる充実、参加者増を目指す ・留学生受け入れについては例年通り実施 ・ICT環境整備を実施
	大学入試の変化等にもともなう 教育内容の変化への対応	・学力向上に向けて、授業中の工夫、課外の補習を実施 ・海外大学進学について積極的に進める
深谷高等学校・中学校	机上の学習をリアルな 主体的実体験へ 生徒の能力や学習意欲を 引き出す授業を展開	・校外先進校視察研修、校内互見授業、生徒による授業アンケート等によるさらなる授業改善の継続 ・学力の3要素に基づく授業の一層の量的・質的向上、ICT教育とe-ラーニングの着実な推進 ・全教員によるアクティブラーニング型授業の実践と、公開授業・研修を推進 ・外国人教員を活用したクリル(CLIL[※])の実践
	外国語教育の充実・ 外国文化の理解などで グローバル人材育成での 社会的評価の獲得	・英語検定対策講座と2次試験対策個人指導を計画的に開催して指導を徹底 ・英語によるスピーチコンテスト・プレゼンコンテスト・ディスカッション等の実施、内容の充実 ・インターネットを活用し、JICA(国際協力機構)と連携した学習活動の推進 ・校内外の研修や先進校視察等による指導力アップ、外国人教員の協力による疑似留学体験の一層の充実
	大学入試の変化等にもともなう 教育内容の変化への 迅速な対応	・大学入試改革への完全対応、英語4技能向上・資格取得に向けた指導の充実 ・新学習指導要領による新教育課程への確実な移行、「総合的な探究の時間」の効果的な実践 ・「進学センター」にて放課後・長期休業中等にさまざまな講座を開講、進路・学習相談できる体制を継続
幼稚園	幼児教育環境の変化に 対応する幼児教育の プログラムの再構築	・特別プログラムを例年通り実施、普通保育の中で言語能力を高める取り組みを工夫 ・これまでの本幼稚園の取り組んできた教育の継続 ・実施している活動の成果の検証、改善
学園	グローバル人材育成のため、 学園全体の教育環境を 重点的に整備する	・財政基盤の安定と持続可能な経営を実現するための戦略的な取り組みと実現 ・ICT教育・プログラミング教育の実践的展開、外部機関との連携強化 ・教員人材の確保により、英語コミュニケーション環境の整備、交流増加の工夫
ネットワーク	創立100周年記念イベントの 実施および、 「オール東京成徳」としての 学園ネットワークを強化	・グローバル人材育成、AI対応できる人材育成に向けて、地域連携など主体的に課題解決に取り組む ・各校での同窓会の強化、東京成徳ネットワークの構築・活性化 ・活動の「場」を構築、各校・園の連携強化、一体感の醸成、学園内・外の有機的な関係構築

※CLIL(Content and Language Integrated Learning)：他教科科目(理科や社会科など)やテーマの内容の学習と外国語(主に英語)の学習を組み合わせた学習。

学園人事 2024年(令和6年)11月～2025年(令和7年)4月

神田正前深谷中高校長が瑞宝小綬章を受章されました。

令和7年春の叙勲において、神田正元学園理事・前深谷中学・高等学校長が教育功勞により瑞宝小綬章を受章されました。

※()は前任

学園組織	木内 雄太	法人本部	本部長(副本部長)	渡部 泰夫	内部監査室 総合リスク管理・コンプライアンス統括室	室長(中高事務部事務長) 室長[兼務]
採用	佐藤 未央子	東京成徳大学	国際学部国際学科准教授	神崎 璃生	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師
	Vu Linda	東京成徳大学	国際学部国際学科助教	村上 優介	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師
	増田 泉	東京成徳大学	子ども学部子ども学科特任教授	新井 優斗	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師
	春日 学	東京成徳大学	子ども学部子ども学科准教授	深野 聡介	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師
	中村 萌	東京成徳大学	子ども学部子ども学科助教	ダッタ ソヒニ	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師
	柏木 直人	東京成徳大学・東京成徳短期大学	事務局施設課長	松澤 楓	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師
	重光 希望	東京成徳大学・東京成徳短期大学	事務局総務課員	MAHEUX SAMUEL	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師
	築嶋 匠	東京成徳大学・東京成徳短期大学	事務局教務課員			
	長谷川 芳江	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師	BAIN MARK LAURENCE	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師
	藤原 瞬	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師			
	杉田 高啓	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師	ZAMARRIPA ROSEMARY ELISHA	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師
	富岡 芽以	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師			
	榎本 知恵	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師	BYERS JOSEPH JOHN MILO	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師
	小机 滉大	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師			
	飯島 勇樹	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師	野崎 未希	東京成徳大学深谷中学・高等学校	専任講師
退職	伊藤 桂史	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師	成澤 圭梧	東京成徳大学深谷中学・高等学校	専任講師
	蒔田 唯那	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師	渡邊 美弥子	成徳幼稚園	教諭
	石神 茉衣	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師			
	CHU JOHNNY TIM	東京成徳大学	国際学部国際学科助教	久保 匡弘	東京成徳大学中学・高等学校	教諭
				山田 彩子	東京成徳大学中学・高等学校	教諭
	大澤 明洋	東京成徳大学	子ども学部子ども学科特任教授	黒崎 里美	東京成徳大学中学・高等学校	事務部主任
	吉田 久美	東京成徳大学	子ども学部子ども学科助教	河野 京子	東京成徳大学深谷中学・高等学校	専任講師
	中井 雄一郎	東京成徳大学	経営学部経営学科准教授	大澤 拓記	東京成徳大学深谷中学・高等学校	専任講師
	岡村 義継	東京成徳大学	事務局施設課長	岩崎 充利	東京成徳大学深谷中学・高等学校	事務部事務長
	名古屋 智恵子	東京成徳大学・東京成徳短期大学	事務局教務課員	鈴木 佳津世	成徳幼稚園	主任・教諭
	樽林 久美子	東京成徳大学中学・高等学校	教諭	濱屋 靖美	成徳幼稚園	教諭
	鴨下 潔	東京成徳大学中学・高等学校	教諭	中村 真矢	成徳幼稚園	教諭
	村山 純	東京成徳大学	経営学部経営学科長[兼務]	福島 祥雅	東京成徳大学高等学校	中高一貫部教頭
	石川 雅俊	東京成徳大学・東京成徳短期大学	入試・広報センター長	和田 一将	東京成徳大学高等学校	中高一貫部教頭
	江澤 恭子	東京成徳大学・東京成徳短期大学	入試・広報副センター長	松本 憲一	東京成徳大学深谷高等学校	教頭(教頭補佐)
昇任	水谷 清佳	東京成徳大学	国際学部国際学科教授(准教授)	青木 楓夏	東京成徳大学中学・高等学校	教諭(専任講師)
				武田 優太郎	東京成徳大学中学・高等学校	教諭(専任講師)
	西村 昭徳	東京成徳大学	応用心理学部臨床心理学科教授(准教授)	井上 麻衣	東京成徳大学深谷中学校	教諭(専任講師)
	木村 祐子	東京成徳大学	子ども学部子ども学科教授(准教授)	田沢 瑠菜	成徳幼稚園	主任
	坪井 瞳	東京成徳大学	子ども学部子ども学科教授(准教授)	大和 大	東京成徳大学中学・高等学校	事務部事務長(次長)
	中川 琢雄	東京成徳大学中学・高等学校	教諭(専任講師)	前田 幸代	東京成徳大学中学・高等学校	事務部係長(主任)
	井守 雄一	東京成徳大学中学・高等学校	教諭(専任講師)	高野 利幸	東京成徳大学深谷中学・高等学校	事務部事務長(事務長補佐)
	和田 幸久	東京成徳大学中学・高等学校	教諭(専任講師)	清水 美子	東京成徳大学深谷中学・高等学校	事務部主任
	越山 恵梨菜	東京成徳大学中学・高等学校	教諭(専任講師)	坂下 正基	成徳幼稚園	技術主任
	松浦 光希	東京成徳大学中学・高等学校	教諭(専任講師)			
	樋口 徹	東京成徳大学	経営学部経営学科長	富岡 達夫	東京成徳大学深谷中学・高等学校	教頭
	我妻 利真	東京成徳大学高等学校	中高一貫部教頭	袖山 明裕	成徳幼稚園	技術主任

訃報

水口 禮治先生(東京成徳短期大学名誉教授、元ビジネス心理科長)

令和7年1月31日ご逝去 享年94

ここに先生のご貢献、ご業績を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

役員・評議員の改選

私立学校法改正による本法人寄附行為の改正等に伴い、2025年6月14日より新理事会が発足しました。また、当日の理事会において、理事長の選定（重任）および新たに副理事長を選定しました。理事・監事・評議員は、下表のとおりです。

理事会

（注）選任区分順、※学外理事

役 職	氏 名	現 職
理 事 長	木 内 秀 樹	短期大学長、中学・高等学校校長、幼稚園長
副 理 事 長	木 内 雄 太	法人本部長、中学校・高等学校教諭、幼稚園副園長
理 事	吉 田 富 二 雄	大学長
理 事	石 川 薫	深谷中学・高等学校校長
理 事	前 田 雅 英	東京都立大学名誉教授、東京都立大学法科大学院客員教授※
理 事	青 柳 晴 久	赤城印刷株式会社代表取締役※
監 事	黒 崎 康 夫	株式会社黒崎インターナショナル代表取締役
監 事	石 山 賢	前 法人事務局長

評議員会

役 職	氏 名	現 職
評 議 員	関 博 光	法人事務局長
評 議 員	小 林 雅 央	大学事務局長、短期大学事務局長
評 議 員	藪 崎 精 克	学園後援会長、株式会社藪崎工務店代表取締役
評 議 員	染 谷 一 子	中学・高等学校同窓会長
評 議 員	柳 澤 裕	三菱UFJ証券ホールディングス株式会社取締役
評 議 員	津 島 泰 雄	津島歯科医院長
評 議 員	木 内 万 里 夫	住友精密工業株式会社、グロービス経営大学院大学教授



前列左より、石川理事、木内副理事長、木内理事長、吉田理事
後列左より、青柳理事、石山監事、黒崎監事、前田理事

〔就任〕

副理事長 木内 雄太

米国University of Michigan MBA修了。東北大学経済学部卒。民間企業勤務を経て、2016年に学校法人東京成徳学園に入職し、法人本部副本部長を務める。2018年からは教員職を兼務。2019年には法政大学経済学部通信教育課程（教員免許取得）を卒業。2019年に学園理事に就任し、2021年附属幼稚園副園長を兼任。教育者として2023年には、Apple Distinguished Educatorに認定される。2025年副理事長に就任。

〔退任〕

評議員 村山 純

2013年経営学部准教授として着任。経営学部教授を経て、2017年に経営学部長、2021年に副学長就任。2017年より学園評議員。

評議員 一谷 幸男

2020年応用心理学部臨床心理学科長・教授として着任。2021年に応用心理学部長就任、同年より学園評議員。

評議員 遠藤 洋子

東京成徳短期大学同窓会桐花会会長。東京成徳短期大学文科英文専攻卒業。2010年より学園評議員。

評議員 茂呂 雄二

2021年応用心理学部臨床心理学科教授として着任。2024年に大学院心理学研究科長就任、同年より学園評議員。

評議員 埴 和明

1983年短期大学幼児教育科専任講師として着任。人文学部助教授、短期大学幼児教育科教授、子ども学部教授、子ども学科長を経て、2023年に子ども学部長就任、同年より学園評議員。

評議員 松本 純子

2004年短期大学幼児教育科助教授として着任。幼児教育科教授、主任を経て、2022年に幼児教育科長就任、同年より学園評議員。

表紙について

創立者菅澤重雄先生の書「進徳修業」の前で撮影しました。この書は法人本部会議室にあり、中国の書物『易経』の一節「君子進徳修業、忠信所以進徳也（立派な人格を持った人となるには、徳を進め、学問や仕事を身に付けなければならない。真心を尽くすことで徳は進む）」に因みます。菅澤先生はよく書を行い、また教育の要は徳育にあると固い信念がありました。実学の人でもあり、実務に役立つ学問と勤労の尊さを重んじて、そのことを自らの実践を通じて教育に展開した人です。学園創立から100年、この創立者の思いは建学の精神「成徳」とともに、本学の教育に受け継がれています。



この書は法人本部会議室にあり、中国の書物『易経』の一節「君子進徳修業、忠信所以進徳也（立派な人格を持った人となるには、徳を進め、学問や仕事を身に付けなければならない。真心を尽くすことで徳は進む）」に因みます。菅澤先生はよく書を行い、また教育の要は徳育にあると固い信念がありました。実学の人でもあり、実務に役立つ学問と勤労の尊さを重んじて、そのことを自らの実践を通じて教育に展開した人です。学園創立から100年、この創立者の思いは建学の精神「成徳」とともに、本学の教育に受け継がれています。



私たちは約束します。

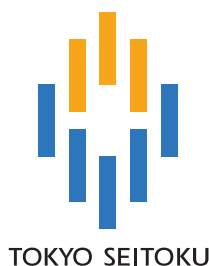
ブランド・ステートメント

多様性の中で共生し、
新たな自分を発見するとともに、
自らの信念をもって
未来をデザインする人材を育成します。

グローバル化が加速する現代社会では、人種や国籍、宗教、性別、価値観などの多様性を受け入れ、必要な助け合いをしながら生きていく共生を、学問や経験を通して学ぶことが大切です。

この学びや経験を通じて、これまでの殻を打ち破る新しい自分の使命や役割を探り当て、確固たる自分自身の信念のもと、自分の未来、自分たちの社会の未来を描き、切り拓いていく人材を、東京成徳では育成します。





TOKYO SEITOKU

学校法人 東京成徳学園

www.tokyoseitoku.ac.jp



学校法人東京成徳学園は
2026年に創立100周年を迎えます

- 東京成徳大学
- 東京成徳大学大学院
- 東京成徳短期大学

東京キャンパス(十条) 東京都北区十条台1-7-13

TEL 03-3908-4530 URL www.tsu.ac.jp

- 東京成徳大学中学・高等学校

中高一貫部 東京都北区豊島8-26-9

TEL 03-3911-2786 URL www.tokyoseitoku.jp/js/

高等部 東京都北区王子6-7-14

TEL 03-3911-5196 URL www.tokyoseitoku.jp/hs/

- 東京成徳大学深谷中学・高等学校

埼玉県深谷市宿根559

TEL (中学) 048-573-1784 URL (中学) www.tsfh.jp/top

(高校) 048-571-1303 (高校) www.tsfh.jp

- 成徳幼稚園

東京都北区豊島8-24-2

TEL 03-3911-6337 URL www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind/

- 東京成徳スイミングスクール

東京都北区王子6-7-14

TEL 03-3914-2383 URL www.tokyoseitoku.ac.jp/swimming/

東京成徳学園後援会のご案内

東京成徳学園の使命達成のため、オール東京成徳で尽力しようと幼稚園から大学院まで学園全体の後援組織として、ご賛同いただく会員を募り組織した後援会です。趣旨をご理解いただき、ぜひご参加ください。

東京成徳学園後援会 目的および事業

(東京成徳学園後援会会則より)

本会は会員相互の親睦を図り、併せて学園の発展に寄与することを目的とし、次の事業を立案実施する。

1. 学園行事への参加協力。
2. 在学生の研究活動、部活動の助成。
3. 卒業生進路への協力。
4. 会員の親睦会、研修会の開催。

入会に関するお問い合わせ

TEL 03-3911-5196 担当 大橋、遠藤(事務)

読者アンケートのお願い

「TOKYO SEITOKU NOW」をご覧いただき、誠にありがとうございます。今後の発行に向け、よりよい紙面作りをするために、皆さまの感想をぜひお聞かせください。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

※お寄せいただいた個人情報は、今後の広報誌作成の参考に利用するものであり、それ以外の目的で使用するものではありません。



QRからご回答いただけます。



@tokyoseitokuPR



@tokyoseitokuPR



@tokyoseitokupr

